

県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校 2 つくば研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>第1ステージ（開校よりの6年間）のテーマ「教育理念から実践へ」から、第2ステージのテーマ「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」に移行し2年が経過した。昨年度は、前年度にも増して、進学及び科学や文化などの分野で生徒のめざましい活躍が見られた。これまでの科学教育・国際理解教育・人間教育を3本の柱とした6年間の中高一貫教育の成果が表れたと言える。</p> <p>本校の基盤ができあがった今、さらなる中等教育学校の可能性を引き出すため、教育課程・教科指導・学校行事等を再構築し、グローバルリーダーの育成に向けて教育活動を充実させていく必要がある。そのために、自立した学習集団の構築をめざし、生徒主体の活動を展開していきたいと考える。その核として、アクティブ・ラーニングを推進してアクティブラーナー（能動的学習者）を育成し、全生徒が意欲的に持てる力を伸ばせるようにしていきたい。また、生徒の人権を大切に丁寧な指導を心がけていきたい。</p>	1 意欲ある学校風土の醸成	○生徒主体の教育活動を展開する。 ・授業研究の充実…アクティブ・ラーニングの推進によるアクティブラーナー（能動的学習者）の育成、授業におけるICTの活用 ・生徒会活動の充実…生徒によるマナーアップ、生徒による集会、常置委員会の活用 ・縦割り活動の充実…学校行事や清掃・ボランティア活動等において豊かな心を育成	A
	2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	○体験活動を充実し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。	A
	3 SSH事業第1期完結の検証と第2期目に向けての態勢の強化	○SSH2期目の指定に向けた、実績作りを進める。 ・中高一貫教育を活かした理数教育のカリキュラム及び教材の開発、指導法の実践的研究を加速化 ・理数系分野の国際舞台で活躍するグローバル人材の育成 ・生徒及び教員の組織力を活かし、自立したアクティブラーナーを育成 ○科学研究部の指導法を充実させる。 ・各種の科学関連のコンテストでの上位入賞者及び国際大会出場を目指す生徒の育成	A
	4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動の体系化を図る。（各教科シラバスの工夫・充実） ○「課題研究」指導体制の充実を図る。	A

別紙様式2 (中等)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 校務運営 (教務)	SSH事業を継続して推進するための教育課程編成や授業時間の確保、行事の調整を行い、学校としての体制を確立する。	SSH関係の講演会等を総合的な学習の時間に位置づける等、学校行事や年次行事の調整を行い、年間を見通した計画的な授業時間確保を行う。	A	A SSH関連行事を計画的に行い、他行事の調整削減 ゼミ環境の整備拡充 経過措置を含めた2期目5年計画の策定 各テスト間隔の調整により試験範囲の教科バランス配慮 前期課程と後期課程の授業振替手段の周知徹底継続 各年次、教科バランスに配慮した試験日程調整の計画的遂行 シラバス活用により能動的学習者の自覚を育成 観点別学習状況評価の適正な運用のための研鑽継続 校務全般の適正化継続
		「課題探究」の授業を効果的に運営するための行事・日課等の計画や調整を行う。	A	
		SSH事業の目的を達成するための理数系を中心とした学校設定科目の新設・改良を十分検討し、学校としての方針を踏まえた体系的なカリキュラム編成を構築する。	A	
	授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業が展開できるような学習環境・システムを整備する。	現行のA週B週C日課システムの利点を最大限に活かし、計画的な運用により授業時間の偏りを減らすための曜日変更や行事の調整を行い、バランスのとれた学習進度を維持する。	A	
		自習時間を減らすための授業振替をさらに推進する。教務として授業変更を管理し、1時間の授業にこだわることで、生徒・職員ともに「授業を大切にする」意識の徹底を図る。	A	
		定期・実力テストに関する各教科・年次からの要望を検討し、結果が効果的に生徒に還元され、授業で培った力がより正しく評価されていくように、試験の位置づけや日程を十分検討していく。	B	
	6年間を見通した校内体制の充実を図り、アクティブラーナー育成のための並木中等スタンダードを確立、発展させる。	アクティブ・ラーニングやICTの活用を取り入れたシラバスを作成し、生徒のアクティブラーナーとしての自覚を高め、意欲を持った学習計画の立案を促す。	B	
		観点別学習状況評価について研修し、生徒個々の学習方法のチェックに還元できる評価方法を研究する。さらに、新テストに関する情報収集、共有に努め、授業への反映を図る。	A	
		保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見を取り入れていく。	A	
	(総務)	本校の目指す教育活動の活性化を図れるような生徒の選抜を行う。	入学者選抜内規を検討する。	
効率的に入試事務処理が行えるように計画の工夫改善を図り、運営担当者の負担軽減と業務の細分化を図る。			B	
本校教育活動についての広報活動を充実させる。		生徒主体の学校説明会及び日頃のアクティブ・ラーニングの実践や研究を生かした学校公開等の企画・立案を検討する。	A	
		魅力ある学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。	A	
		HPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHPの更新を図っていく。	A	
儀式的行事を円滑に運営する。		入学式、卒業証書授与式、修了式等の企画・運営を円滑に行う。	A	
	校内の放送機器等の整備を行う。	B		
(涉外)	涉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	P T A総会、本部役員会を企画・運営する。	A	A 情報共有による信頼関係維持 積極的参加による関係維持 計画的運営と業務の効率化 行事計画の周知徹底
		県高P連及び県西高P連との連携・協力を図る。	A	
		年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会、支部会を開催する。	A	
		文化祭、ウォークラリー等、学校行事への保護者の参加協力を積極的に呼びかける。	A	

別紙様式2 (中等)

2 企画研究部	6年間を見通した「課題研究」の指導体制の確立を図る	生徒一人一人の課題研究の充実,及び指導する教員の指導力の向上を図り,年間を通して「課題探究」授業の充実を図り,6年間を見通した「課題研究」の指導体制の確立を図る。	A	A	前期課程における課題研究基礎スキル養成及び,指導力を高めるための教員向けのサポート体制,「課題探究」の授業の充実
	SSH第2期目に向けての態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH2期目の指定に向けた,実績作りを進める。 ・中高一貫教育を活かした理数教育カリキュラム開発と教材・指導法の実践的研究の加速化 ・授業や課題研究を通して主体的に学ぶ姿勢を身に付けたアクティブラーナー及び自立した学習集団の育成を目指す。 	A		ICT環境や活用の充実を図った上で理数教育カリキュラム開発と教材・指導法の研究及び本校SSHの研究課題への取り組みの加速化
	本校の教育の柱の一つである国際理解教育の充実を図る。	ユネスコスクールとしてESD教育と国際理解教育をリンクさせた教育活動を充実させる。	A		県内唯一のユネスコスクールの活動及び本校の国際理解教育活動の充実
(並木メソッド)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に一人一研究に取り組むことにより,自ら課題設定をし,考え学ぶ姿勢を身に付け,6年間を通して真の自立する学習集団の構築を目指す。 ・1～3年次において課題研究の基礎となるスキルを養う。 ・「課題探究」授業及び発表会の充実を図る。 	年間計画に基づき,1～3年次で総合的な学習の時間や教科間の連携,クロスカリキュラム等を活用し,レポート作成,グループ研究,質と量を伴った幅広い読書の充実などによって,4・5年次の課題探究授業に必要な基礎力を養う。	A	A	前期課程における更なる系統だったプログラムの開発
		「課題探究」授業が年間を通してスムーズに実施できるように,使用可能なワークシートの充実や発表会の計画立案等のサポートを行う。また5年次生全員が発表する校内発表会を課題探究の集大成と位置付け,内容の充実を図る。更に5年次までに培った自ら学ぶ姿勢を活かし,6年次においての進路実現につなげていく。	A		テーマ設定のための「探究ノート」,及び研究の質を高める取組の充実
(並木SGH)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育・国際交流など特色ある学校づくりの取組を行う。 ・県内唯一のユネスコスクールとしてESD教育に積極的に取り組むと同時に普及を目指す。 	SSH事業とリンクをさせた国際理解教育を充実させる。 例:英語科と他教科のクロスカリキュラム実施やICT活用,アクティブ・ラーニング等	A	A	英語と社会,英語と理科などのクロスカリキュラムを開発
		キャリア教育の視点や,外部機関(学術振興会・JICA・土木研究所・産業技術総合研究所・企業等)との連携を踏まえて,各年次に最もふさわしい国際理解教育に関わる行事を選択し,当該年次に提示する。	A		各行事の反省を踏まえたよりよきものへの改善と,さらなる充実
		海外から本校への訪問の受け入れ及び交流の企画立案を行う。	A		国際交流のさらなる充実
		ユネスコスクールの役割及びESD教育の意義などについて文化祭などを通じて生徒,職員を啓発し,普及を図る。	A		職員研修や前期課程の一研でのユネスコの理念拡張と理解の深化
		ニュージーランド語学研修のキャリア学習を含めた見直しと入札(8回生に向けて)を適切に行う。	A		事前学習をさらに充実させ,学ぶ姿勢を強化

別紙様式2 (中等)

(SSH)	<ul style="list-style-type: none"> SSH指定5年目として、研究開発課題に対する実践的な取組を行い、5年間のSSH事業を総括する。 SSH2期目の指定に向けて、2期目の研究開発課題を協議、決定する。 	中高一貫教育を活かした理数教育のカリキュラム開発と教材・指導法の実践的研究	A	A	教材のバリエーションの更なる増加
		課題探究のカリキュラム開発	A		探究ノートの開発 テーマ設定能力の育成
		実践的研究における大学・研究機関との連携方策	A		筑波大学との連携強化
		国際性を育成する取組の開発	A		NZ海外研修でマセイ大学と連携強化
		自主ゼミの実施	A		講師役の生徒のスムーズな選出方法の確立
		広報活動の充実	A		カリキュラム開発の成果のHPによる普及
		他校との連携	A		茗溪学園、竹園高等学校との定期的な連絡協議会の開催
3 学校生活部 (生徒指導)	<p>基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い、自己実現を目指す。</p>	全職員の共通指導を徹底する。	A	A	前後期の職員の共通理解
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るよう努める。	B		上級生が下級生の見本になるよう自覚化
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成を目指す。	A		部活動のみならず、クラス・委員会での活動の促進
	<p>保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。</p>	保護者との連携・協力を密にする。	A		保護者との連携をより密にして、家庭との協力による事故の未然防止
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力を図る。	A		学校と警察の連絡制度の活用及び連携
		生徒事故の未然防止に努める。	A		日常から生徒の行動を観察し、小さな変化にも対応して更に未然防止
	<p>安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。</p>	登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A		特に雨天時の登校時指導を継続的に実施し交通安全、事故未然防止
交通安全教育の徹底を図る。		B	定期的に講習会を開催し交通安全の意識を高揚		
定期的に自転車点検を実施する。		B	今後業者とも連携して実施		
(特別活動)	部活動の活発化を図る。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	A	6年一貫の活動を計画し、実行	

別紙様式2 (中等)

		部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	A	A	活動時間や場所が少ないので効率よく活動
		部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		部顧問の適切な配置及び指導体制の充実
	主体性のある生徒会活動の推進を図る。	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		生徒会活動を全校生徒に知ってもらうよう、生徒会新聞や活動報告を継続
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	A		仕事内容を前期・後期と分担し、それぞれ責任を持って実行
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	A		定数以上の立候補者の確保
	学校行事の活性化を図る。	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上を目指す。	A		多くの生徒が実行委員として活動し、計画運営を行うことができたので引き継ぎを充実
		中等前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		上級生主体で下級生を指導しながら運営
		中等前期・後期課程の生徒が同日開催となるスポーツデイを成功に導く。	A		各カテゴリーで生徒主体の計画・運営ができたので、今後も継続
		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	B		生徒会と実行委員会との連携活性化
	(保健安全)	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。		A
日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携を図る。			A	今後も、関係教員および保護者との連携	
校舎内の美化と安全を図る。		年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化を図る。	B	生徒自身が清掃の効果を実感できる縦割り清掃の実施	
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	A	清掃強化週間における清掃活動の充実	
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	A	定期的な点検を行い危険個所の改善	
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A	年度はじめの災害対応マニュアルの周知	
	避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A	地域との連携を強化した学校防災の取組の実施		

別紙様式2 (中等)

(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応を図る。	学年と情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。	A	A	学年を超えて複数で対応し、情報を共有	
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		校内の実態にあった研修の開催や文書の作成	
	年次・保護者との連携強化を図る。	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A		担任、年次主任との連携	
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A		スクールカウンセラーや養護教諭とも連携し、保護者との丁寧な関わり、	
スクールカウンセラー（SC）の積極的活用を図る。	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援を図る。	A	安心して受けられる環境の整備（内面的な支援）担任、主任との連携			
	カウンセリングにおいて、SCと担任等の間の連絡調整を支援する。	A	情報を共有し、有効な支援の構築、			
(ウォークラリー)	ウォークラリーを通して心身の健全な育成を図り、集団意識の高揚を図る。	体育授業での歩行練習で生徒の体力の増進に努める。	A		A	より計画的に実施
		生徒自ら集団歩行・行動の大切さを身に付け、お互い協力して歩行できるよう促す。	B			実行委員を中心に推進
		上級生から下級生まで全校生徒が一つになり行事の成功に向かうよう働きかける。	A	全校生徒の集団意識高揚への働きかけ		
(給食)	正しい食事のあり方や望まし	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	A	A	担任のみならず年次全体で食育指導を継続	
		い食習慣を身に付け、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	B		給食係や給食委員会による常時活動の活性化	
	職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A	給食指導を通して生徒とのコミュニケーションを深めクラス経営を円滑化			
4 学習進路部 (進路指導)	6年間を見通したキャリア教育を促進し、生徒が可能性に挑戦する進学指導を実践する。	年次に合わせた進路行事の体験を通して職業観や進路意識を高める。	A	A	縦の年次との連携	
		進路だより・進学要覧の発行および進学ガイダンス等により、生徒への啓発と保護者への情報提供を行う。	B		全年次に進学要覧を配布 講話内容の検討	
		個人面談の充実により生徒に高い志と進路目標を持たせ学習時間の向上も図る。後期課程では土曜学習会を実施する。	B		授業外学習時間2時間以上を確保 面談の確保	
		模試学力分析会・進路研修会・学習状況調査により生徒情報を共有し、面談力の向上を図る。	A		調査内容の検討 模試分析と目標の共有	
(授業研究)	教員の学習指導力のレベルアップを図る。	毎月の授業参観（ちょっと見週間）を実施する。ちょっと見に連動してアクティブ・ラーニングやICTを取り入れた授業公開を実施する。	A	A	縦割り学習を含めた TO(ティチング・アザーズ)の推進	
		教師向け研修会・外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A		指導力、授業力の向上。	

別紙様式2 (中等)

(学習環境)	学習環境を整備する。	ブライツホールの利用を促進する。	A	A	運営方法の検討
		赤本の充実を図る。	A		必要図書の実
(図書館運営)	図書館運営を充実させる。	図書の充実を図る。	A	A	冊子“今、君に読んでほしい一冊”の継続 大学教育を視野に入れた書籍選定 購入希望図書の受け入れ(生徒・職員)
		図書室利用の促進を図る。	A		貸出カードの見直し 授業における図書室活用の具体案作成、各教科への働きかけ
5 PCシステム	IT機器を整備する。	ハードウェアを整備する。 (PC室のPCの入れ替えに伴いLL室のPCを見直す。iPAdの一元管理を試みる。PCを確保し電子黒板用にセッティングする。サーバのファイルを整理し逼迫したバックアップ用HDDを効率的に運用する。)	B	A	ファイルサーバの老朽化への備え
		ソフトウェアを整理・調整する。 (iOS用アプリの効率的な導入方法を検討する。校務支援システムを実態に合わせて調整する。)	A		
	ネットワーク環境の安全で安定な運用を図る。	A			
	ネットワーク機器を補修・構築する。 (教職員セグメントのスイッチングハブの老朽化に備える。)	A	wifiの整備を各部と調整し推進		
6 事務部	教育環境の充実に努める	授業研究充実のため、必要な設備、備品を整える。	B	B	要望があるものに対し、整備できるものを整える
		生徒が安心して学校生活を送るため、教育環境の整備に努める。	B		予算の関係があるが、環境整備に努力
7 1年次	当たり前のことが当たり前に見える生徒の育成	目を見て、だれにでも元気に挨拶ができるように日頃から指導を行い、さらに学校の決まりや、公共のマナーなどに対する意識を高め、実践・振り返りする時間を設ける。	B		来校者や教員などに自分から挨拶する意識を高める
		課題の提出期限などを守り、見通しをもって行動できるように、フォーサイトを有効活用する方法を指導し、支援を行う。	A		課題を提出できない一部生徒に対するはたらきかけ。

別紙様式2 (中等)

	急速に変化している日本や世界に役に立とうとする強い使命感をもった生徒の育成	並木中等で学んでいることの意味を理解し、学活や道徳の授業を通し自分の夢や高い目標を叶えていこうとする強い意志をもつことができるようにする。	B	A	自己肯定感を高め、目標実現のために前向きに取り組もうとする意志を育英 自己肯定感を高める取組
		総合的な学習の時間での個人研究や施設見学、講演会などでさまざまな人の話を聞いたり、見たりする機会を多く設ける。	A		インターンシップや体験を伴う行事の企画。
	感謝の心を持ち、友と切磋琢磨できる生徒の育成	校外学習や年次レク、学級でのレクリエーションなどを生徒自らが企画・運営したり、個性を發揮し活動したりする場を設ける。	A		ミニ研究等を効率的にすすめる工夫をし、校外学習やレク活動をさらに設定
	21世紀型能力をもった生徒の育成	アクティブ・ラーニングを通して、自分の考えを伝えたり、友の意見を聞いたりする場面を多く設定し、自ら考え積極的に生徒が活動できる授業を積極的に行う。	A		アクティブ・ラーナーとしての素晴らしい力をさらに伸長
8 2年次	基本的な生活習慣を身に付け、自律心を持ち生活できる生徒を育成する。	挨拶や学校の決まり、公共のマナー、安全な生活、提出物等に対する意識を高めるとともに、その振り返りを行う活動を設ける。	B	A	学校の決まり・マナー等の徹底
		時間管理能力や規則正しい生活習慣を身に付けるため、手帳を有効に活用する方法を指導し、支援を行う。	A		生活向上を図る活用方法の検討
	互いに認め合い協力できる生徒を育成する。	学校行事、校外学習や年次レク、学級でのレクリエーションなどを生徒自らが企画・運営したり、個性を發揮し活動したりできる場を設ける。	A		学級代表による企画委員の立ち上げ
		部活動の中心的な立場としての意識を高めさせ、積極的な参加を促す。	B		目標を持った活動の実践
	目標を持ち、粘り強く学習に取り組む生徒を育成する。	長期休業や各考査等の際に、長期的、または短期的な目標を設定し、その達成状況を振り返る活動を取り入れる。	A		目標を達成する学習計画の作成
		教科担当と学級担任が、一人一人の学習状況を共有し、適切な助言指導を行う。	A		課題提出が滞る生徒への対応
	自己理解と進路意識の高揚を図る。(進路指導)	総合的な学習の時間での個々の研究や職業について考える校外学習、職業調べから、将来の適性を見出し、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。	A	具体的な将来像の獲得	
9 3年次	規律ある基本的な生活習慣を育成する。(生活指導)	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	A	A	次年度も挨拶指導の徹底継続
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		授業時間の確保を継続
	学習の習慣化と基礎学力の育成を図る。(学習指導)	しっかりと挨拶の出来る年次作りを行う。	B		挨拶の徹底を継続
		家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫をする。	A		効率的・効果的な家庭学習の習慣化
	自己理解と進路意識の高揚を図る。(進路指導)	前期課程から後期課程での過渡期であるので、基礎から発展へと学習内容に広がりを持たせ、幅のある授業を展開する。	A		今後もより良い内容なるように継続研究
		大学・学部学科調べ、マイフューチャーセミナーによる進路意識の啓発を行い、後期課程に繋げる。	A		進路意識が希薄になった点への改善策検討
	充実した学校生活を送らせる。(その他)	国内修学旅行を通して日本の文化伝統への理解を深め、さらに国際社会での情報発信能力の育成を図る。	A	テロなどの危険性に配慮した、修学旅行のあり方の検討	

別紙様式2 (中等)

		部活動・生徒会活動への参加を推進する。特に部活動は後期課程まで継続していく指導を行う。	A		部活を辞めてしまう生徒を減らす工夫
10 4年次	基本的な生活習慣の育成	生徒・教員ともに、挨拶の日常化・習慣化を図る。	A	A	更に挨拶の行き交う年次に育成
		遅刻をさせない。睡眠時間を確保させ、朝のSHRでの指導の強化に努める。	A		今年度の状況を継続
		長欠生徒、問題生徒に対して、前後策と問題解決に努める。	A		
		思いやりある心を育て、良いクラスの雰囲気、環境づくりに努める。	A		
	学習の習慣化と基礎学力の育成	アクティブ・ラーニングを積極的に導入し、自ら考える力を養い、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。国公立大学の二次試験に対応できる論理性・表現力を育成する。	A		授業の向上とテスト問題のレベルアップ
		小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化及び学力向上を図る。	A		今年度の状況を継続
		スコラ手帳を活用し、年次平均で平日2時間以上の学習時間を確保させる。	A		今年度の状況を継続
	自己理解と進路意識の高揚	進路講演会、大学見学会、マイフューチャーセミナー（職業人講話）、卒業生との学習相談会等により、自己理解と進路意識の向上を図る。	A		新規事業が多かったが、次年度は現状の行事で十分
個人面談を重視し、難関大学への進学を早期に意識させる。また、LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して進学に関するアドバイスや情報提供に努める。		A	今年度の状況を継続		
その他	継続した部活動への参加の推進を図る。	A			
11 5年次	規律ある基本的な生活習慣の育成	家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。	A	A	本年同様連絡を緊密化
		生徒との面談を繰り返すことによって生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。	A		本年同様面談を頻繁にする
	生徒間、生徒と教員間の集団としての信頼関係の形成	発展期を迎え、クラスの団結と仲間意識の向上のためLHR活動を充実させる。	A		仲間意識を強化するLHRを実施
		生徒との面談を年次職員全員で取り組むことによって一層の生徒理解を図る。	A		年間を通して、面談を実施
	学習習慣と基礎学力の育成	「家庭学習の記録」表などを導入することによって家庭学習時間を確保する。	A		記録を通して、生徒の勉強の状態を把握
		授業中心に心がけるとともに、課外を導入し、ひとつ上のレベルをめざす。	A		生徒の目指す大学に合わせた課外を実施
	異文化理解と自己理解について考察を深める生徒の育成	台湾への修学旅行をとおして、異文化理解および異文化から自国の文化を再確認する。	A		
		最終年次に向けて、大学模擬授業や進路講演会をとおして自己理解を深め、進路意識の向上を図る。	A		講師との事前の話し合いを通じて、生徒の役に立つ講演会を実施
12 6年次	規律と活力ある基本的な生活習慣の完成	遅刻指導を重点的にを行うことを継続することで、早めの登校時間を習慣づけ学校生活にリズム感を持たせる。	A	A	生活リズムの維持 遅刻をゼロにする
		「家庭学習の記録」の記入と提出を継続させることで、生徒と担任間の意思疎通を密にし、生徒動向の把握に努める。	A		自己の生活全般に対するマネジメント能力の向上

別紙様式2 (中等)

	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての団結力の高揚	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディースペースやブライトホールの活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気醸成に努める。	A	A	学習環境の整備向上
		担任および副担任との面談はもちろん、時期に応じて主任、副主任など年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず6年次職員団として生徒情報の共有を図る。	A		生徒全員の情報を年次会議等で共有化
	志高い進路意識の維持による進路実現	年次集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を喚起、維持させる一方、複数回の面談をとおして個に応じた受験指導を図る。	A		個別面談を通じての個々においた指導
		LHRや総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては質の高い学力の向上を図る。	A		OBOGや業者による説明会を通じての意識向上
	様々な場面で下級生の模範になるよう、最上級生としての自覚の育成	年度前半の学校行事や部活動においては、悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。 縦割り活動をとおして、最上級生としての行動を自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。	A B		かえで祭等の年度前半の行事でのリーダーシップ育成 先輩から後輩へ受け継がれる学風創造の意識向上徹底
13 国語科	基本的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し、学習の見通しを持たせ、計画的に学習しようとする態度を育てると共に、予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	実態に合った学習ガイダンスの作成と自主的な学習態度の育成
		単元ごとに明確な到達目標を提示し、段階をおった授業計画と評価計画を提示する。	B		生徒の実態に合った授業と評価
	読解指導の深化	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、芸術論や科学論等幅広い分野の文章を客観的に読解できる力を育成する。	B		幅広い文章に触れることが出来るような授業づくり
		A・L型授業展開をすることにより、他者との関わりの中での学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を目指す。	B		AL型授業と読解力の向上を結びつける技術の向上
	「書くこと」の指導の徹底	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	B		板書とレポート等課題の工夫
		各年次に合わせた添削指導を行うことにより、論理的文章表現力の向上を図る。	B		各年次での授業法、教材研究、情報の共有化
	「聞く」態度の育成と適切な話し方の指導	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	B		AL型授業を用いた聞く態度の育成
		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		AL型授業を用いた話し方の指導
	研修機会の充実	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を集めて活用する。	A		目的を明確にしての参加と学んだことへの教科内への還元
		定期的な教科会を開くと共に、互見授業を行うことで年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	B		問題点の把握と共有、6年間を見通した指導法の構築と積極的な実践
他教科の授業を積極的に参観し、指導法の工夫を取り入れる。		B	他教科との一層の交流		

別紙様式 2 (中等)

1 4 社会科	6年間を見通した教科指導体制を構築する。	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施する。	A	A	評価規準策定の適正化
		開校10年目を目標に、カリキュラムの再検討をおこなう。 ・基礎期(中1～2) 学習内容を精選し、言語活動を積極的に導入する。 ・充実期(中3～4) 効果的な先取り学習や教科横断型授業の研究を進める。 ・発展期(中5～6) 進路実現に必要な学力を養成する。	A		発達段階に配慮したクロスカリキュラム開発の継続
		多様な進路希望に対応できる科目選択の在り方を研究する。	B		少人数授業への対応
	生徒主体の授業を展開常に意識し、学習意欲を喚起するための指導法の工夫と改善を図る。	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善として、教科会での話し合いを生かしながら能動的な学習につなげられるような学習課題や発問の開発を行う。	A		教科会での意見交換、授業の相互参観による研鑽
		アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善として、ICT積極的活用や記述、説明、討論といった言語活動を積極的に取り入れる。	A		グループ討論などでのALTタイマー活用
		自ら学ぶ生徒を養成するための工夫として、課題提出や小テスト、家庭学習を充実させることにより基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。	B		本格的な論述指導を念頭に置いた基礎基本習得の徹底
自ら学ぶ生徒を養成するための工夫として、課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。	A	個別指導の推進			
1 5 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成をはかる指導	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開や説明方法を工夫する。	A	A	教材や指導法を工夫し、開発
		定期的に課題を与え、家庭学習と充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	A		毎日の課題を提示
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		受験問題を提示
	学習意欲を喚起する指導	SSHの取り組みを踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図る。	A		クロスカリキュラムの授業を実施
		課題や課題提示の工夫をする。	A		到達度に応じた提示
		数学的コミュニケーションの充実を図る。	A		実生活での応用を提示
	個に応じた指導	きめ細かな指導をするため、TT指導・習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A		習熟度学習の実施
		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		課外や補習授業の実施
1 6 理科	学力の向上を図る。	オリジナルプリントや到達度シートを活用して基礎学力の徹底を図る。	A	A	下位者を考慮して少人数でのアクティブ・ラーニング等によりさらなる基礎学力の徹底
		アクティブ・ラーニング等により主体的学習態度の育成を図る。	A		継続的に実施
	6年間の系統的なカリキュラムを開発・実践する。	前期課程で高校教科書の一部を先取りして学習することにより、前期から後期への接続の体系化を図る。	A		前倒しの中で後期での実験も増加
	効果的な学習法・指導法を開発する。	アクティブ・ラーニングやICT等を取り入れた授業を相互に参観し、その指導法を共有することにより指導力の向上を図る。	A		効果的な手法を研究
		教科会で指導法等の研修会を開く。	A		研修会の回数を増加
	SSHの特色をいかした授業研究を行う。	ICTや外部講師を活用した授業やクロスカリキュラム等を研究する。	A		効果の検証法も研究
		SSH枠等で必要な予算措置を行う。	A		ICT関係も協議

別紙様式2 (中等)

17 英語科	総合的なコミュニケーション能力の育成	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。オーセンティックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A	A	それぞれの技能のバランスに配慮
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		実践的なコミュニケーションを意識
	基本的な英語力の構築	自主学习ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	A		効果的な宿題の出し方や、小テストの工夫
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		導入時における辞書指導
	英語を用いた言語活動を積極的に進める力の育成	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動を通して自分の意見をきちんと英語で表現できる力を養う。	A		前期はスモールトーク、後期はディベートを念頭に
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		効果的な補助教材の選定
	国際的な視野を広げる言語活動の構築	ALTや留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		ALTの効果的な活用
		インタラクティブフォーラムやスピーチコンテストなどに積極的に参加し、意欲的に言語活動に取り組む機会を設ける。	A		大会への参加を通してより高度な英語力を育成
	6年間を通じた並木中等英語科としての指導形態の確立・発展	教科会やちょっと見週間等を通して、各年次における英語授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		常に6年間の指導を意識
		ディベート授業研究発表会の実施や公開授業等を通して並木での英語授業形態を外部的に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		授業公開を通して、並木英語科スタイルの発展と継承
18 芸術科 (音楽)	基礎的な能力を養う	実技を含めながら、基礎的知識についてわかりやすい説明を行う。	A	A	実技指導の中で効果的な説明を実施
		反復練習を重視し、表現活動の能力を養う。	A		表現活動の形態を工夫し、主体的に表現する場の設定
	幅広い表現活動の充実	グループ学習を重視した、歌唱・器楽それぞれの表現活動を多く取り入れる。	A		活動の目標にあった表現活動を実施
		グループで意見を出し、表現したいことを意識した活動を重視する。	B		グループでの目標を設定
	鑑賞教育の充実	様々な時代、形態、国の音楽を鑑賞することで、音楽文化への興味・関心を高める。	A		ワークシートの工夫やクロスカリキュラムの実施
		音楽の諸要素に着目し、音楽の構成についても理解し、意見を発表する活動を多く取り入れる。	A		鑑賞のポイントを提示
	創作活動の充実	音楽の基礎知識を生かし、簡単な創作を行い、音楽を別の視点から学ぶ。	B		教材の開発,工夫
		音楽の構成や進行に従って作曲を行い、発表活動を行う。	B		作って音にする活動の工夫
19 芸術科 (美術)	基本的な美術の能力を育成	体験活動を充実させ、美術の基礎知識を身に付ける。	A	A	時間配分を効果的に使う
		豊富な表現活動に触れ、美的感覚と表現技術を養う。	A		共通事項に注意し、系統的な体験を計画
	柔軟な表現活動を育成	豊富な知識や表現方法を能動的に活用する喜びを養う。	A		
		自他の価値観を認め、自信を持って表現活動する。	A		鑑賞の機会を増やす

別紙様式 2 (中等)

	鑑賞教育の充実	自国の美術文化の流れを理解し、優れた伝統美術に関心を持つ。	A	大まかな美術史を計画 実施単元との関わりで比較し理解を深める 身近なテーマで実習 工芸的教材を取り入れる
		日本の美術と他国の美術価値の違いに関心を深め、国際理解を深める。	B	
	美的体験を日常生活に生かす	デザイン感覚などを実生活に活用できるスキルを身に付ける。	B	
		絵画や彫刻・工芸などを暮らしに役立てる感覚を身に付ける。	A	
20 保健体育者	体力を高め、心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	A	A さらなる積極的参加姿勢の育成 体づくり運動で体力を高める運動の取り組み強化 体力テストの結果を基に、自己の状況を把握させる 個々の能力に応じた運動で楽しめるルール作り 前期生時により多くの種目を経験 ルールブック等を使用しながらルール理解に繋げ、ゲーム機会を多く設定 集合整列の徹底 授業開始・終了、ゲーム開始・終了時における挨拶の徹底 マナー・ルール遵守の徹底 心と体の結びつきの理解 ICT機器の活用や実習により、生徒の能動的な学習に結び付ける 各自の生活習慣や食習慣を改善し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる
		体づくり運動の効果的な実践を行う。	A	
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	B	
	運動を豊かに実践することができるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	
		幅広い基礎運動技能を習得させる。	A	
		ルールを理解させる。	A	
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動をとる。	A	
		挨拶を励行する。	B	
		マナー、ルールを遵守させる。	A	
	保健学習の充実	心身の発達と心の健康についての理解をさせる。	A	
		健康と環境、障害の防止についての理解をさせる。	A	
		健康な生活と病気の予防についての理解をさせる。	A	
21 技術・家庭科 における技術 分野	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	他教科との関連を意識した授業展開から、生徒の知的好奇心を喚起する。	A	A 理科（物理）と関連する単元 個と集団との場の設定 班での協力体制 生徒の授業の用意 実生活における活用を想定 実生活につながる教材の工夫
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A	
	科学的な理解と技術の習得	実習などの体験的な活動を通して、基本的な技術を習得する。	A	
		ワークシートや学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A	
	生活に生かす力の育成	生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A	
ワークシートや実習を通して、生活の場面を想定できるよう授業を展開する		A		

別紙様式 2 (中等)

2 2 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に応えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A	A	身近な生活の中から題材の設定を工夫
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A		体験をもとにした科学的理解の醸成
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		学び合いによる充実した学習活動を展開
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する。	A		クロスカリキュラムの有効活用
		基礎的・基本的な技術を習得できるような実習を行う。	A		家庭での日々の実践喚起
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A		資料集や学習ノートの活用推進
	生活の場での実践力の育成	生活者として課題をみつけ改善できる実践力を育てる。	B		課題改善の視点を養う効果的な授業
		保育所訪問や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる。	A		社会や地域の一員として参加していく姿勢の育成
2 3 情報科	IT 活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。	A	A	
		情報の検索、加工、発信という基本的な IT 活用プロセスを扱う。	A		
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	A		作品の共有や発表時に特に意識して働きかけ
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	A		社会における重要性も含めて授業で取り扱う
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		
		情報モラルを重視した指導を行う。	A		多くの場面で指導することで生徒への意識化
	他教科や外部組織との連携	学校行事・課題探究とリンクした実習を取り入れる。	A		
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		NZ 語学研修時の英語科とのクロスカリキュラムの手法の確立
2 4 道徳	望ましい生活態度を身に付け、互いの個性を尊重し、自主的・自律的な行動をしようとする態度を育てる。	道徳教材「ともにあゆむ」を計画的に扱うとともに、学級や学年の生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた題材を提示する。	B	A	「ともにあゆむ」の計画的・有効的な活用を考える
		社会人講師による講演（マイフューチャーセミナー）を通して、学校での経験が、社会に出たときに、より良い人間関係の構築と円滑な社会生活の維持に活かせることを実感する。	A		マイフューチャーセミナーが事業見直し対象のため検討が必要
		「道徳」「道徳プラス」の授業や、文化祭などの学校行事等において、クラスやグループ内で意見交換や話し合いの場を設け、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めさせる。	A		

別紙様式2 (中等)

		授業で考えたことを、自分の今までの考え方や生活と比較し、これからの自分の生き方に反映できるようまとめる。	A		まとめたものを共有し、より一層の深まりが得られ得る仕組み作り
25 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開催し、生徒自らが積極的に企画運営できる能力を育てる。	A	A	生徒会主催の集会や、生徒主体の年次集会の充実
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		一人一人に責任を持たせ、計画、実践、評価の実践
集団や社会の一員として望ましい人間関係を構築し、よりよい生活環境を築こうとする態度や自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の企画・運営をする能力を育てるとともに、集団の一員として望ましい人間関係を構築できる能力を培う。	A	集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実 学級・学校の生活や行事を楽しくするためのきまりを自分たちでつくって守る活動などの充実		
26 総合的な学習の時間	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育成する。	「かえでツーリスト」というテーマで、かえで祭において、自分の住んでいる地域について調査し、その内容を分かりやすくまとめ、発表することを通して、探究のスキルを育てる。(1年)	A	A	資料収集、調査等をさらに深める取組の工夫
		科学・国際・人間・地域の分野から興味にあるテーマについて「課題研究」を行う。実験・観察、文献調査・校外学習等を通してまとめ、発表をし、課題発見能力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育てる。(1年)	A		課題研究を深める校外における体験学習の見直し
	課題研究を通して、情報を収集・分析し、相手や目的、意図に応じてまとめたり表現したりする能力を育成する。また、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。	「キザニアかえで～将来の職業について考えよう～」というテーマのもと、自分に適した職業を知る活動や職業調べ、キャリアアトラクションの企画立案・実践を通して、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。(2年)	A		校外学習の実施方法の見直し
		「一人ミニ研～研究論文を作成しよう～」というテーマのもと、フィールドワーク(実験、観察、現地調査、施設見学等)や文献調査、研究論文の作成を通して、情報を収集・分析力や表現力を育成する。(2年)	A		フィールドワークにおける振り返り活動の見直し
	進路学習や文化的体験を通して、自ら課題を追究し、深く調べる能力を伸長する。	「日本の文化を知る」ことをメインテーマとして、国内修学旅行への事前学習を通して、我が国の歴史や伝統芸能にも触れる体験をする。(3年)	A		自らの研究内容の選択を充実させる取組
		マイフューチャーセミナー、大学見学、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(3年)	A		マイフューチャーセミナーの企画・運営の工夫
	職業観や学問に対する視野を広げていく中で、将来の自己理想像を構築する。	マイフューチャーセミナー(職業人講話)や道徳の授業を通して、職業観や生き方に対する意識を高める。(4年)	A		マイフューチャーセミナーのあり方と実施面での改善
	大学出前授業、進路講演会、文理選択説明会、大学見学会、卒業生との学習相談会などの進路学習を充実させ、進路に対する視野の拡張と難関大学への意識を高める。(4年)	A	継続的に実施できる方策を工夫		

別紙様式2 (中等)

	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら理解しようとする能力を養うことで将来の進路実現につなげる。	「異文化理解と自己理解」というテーマで、台湾への修学旅行をとおして異文化理解と異文化から自国の文化を再確認する。(5年)	A	普段の教科指導などのなかで、さらに発展させる。 ・最終学年で、進路実現を目指す。 ・進路選択を通しての自己実現の達成状況の把握を継続 ・6カ年の学校生活を土台にした将来展望の把握を継続
		自己の進路について、多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるよう一助、そして、最終年次に向けて意欲の向上を図り、進路実現を目指す。(5年)	A	
	6カ年教育における諸活動をとおして、自らの生きる道を、主体性を持って選択し決断できる能力を育成する。	「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで、進路情報の収集を進める一方、進路講演会などをとおして、その都度自己を見つめ直す機会も設ける。(6年)	A	
		並木中等での6年間の総括をすべく、時期により作文やレポート作成を行い、振り返りと将来への展望を促す。(6年)	A	

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない